

2022年11月6日（日）主日朝礼拝説教

『宣教する教会』 井上隆晶牧師

コリントの信徒への手紙一 9章16～23節、マルコ福音書3章13～19節

①【キリスト教信者であることを誇ってはならない】

今日は福音宣教についてお話ししましょう。その前に、わきまえておかねばならないことをお話ししましょう。まず、救われる人と、滅びる人は生まれる前から決まっているのでしょうか。そんなことはありません。もしすべてが定まっているなら、私たちがこの世で正しく生きることに意味がなくなってしまうでしょう。神は人を分け隔てなさいません。キリスト教徒であろうと、他宗教の人であろうと、宗教に属していなくても、神はその人の行った業に応じて報われます。パウロは「律法を聞く者が神の前で正しいのではなく、これを実行する者が、義とされるからです」（ローマ2:13）と語り、イエス様も「私に向かって主よ、主よ、と言う者が皆、天の国に入るわけではない。私の天の父の御心を行う者だけが入るのである。」（マタイ7:21）といわれました。「主よ、主よ」というのですから信者です。教会に来て主の教えを聞くだけで、行わなければ信者とはいえないのです。信仰には行いが伴わなければなりません。ヤコブははっきりと語ります。「行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです。」（ヤコブ2:17）キリスト教徒であっても神を畏れず、悪を行い、人を傷つけるなら神は必ず裁かれます。キリスト教徒でなくても、正しい生活をし、隣人を愛し、人の為に生きるなら、必ずその人は報われるでしょう。だからキリスト教の信仰をもっていることを誇ってはなりません。ある福音派のグループのように「キリスト教を信じなければ滅びる」などと言ってははいけません。悪魔でさえ、神は唯一だと信じて深く信仰を持っているのです。私の祖母は天理教徒でしたが、貧しい人によく施しをし、贅沢をせず、憐れみ深い人でした。あの人が天国に入れないなら私も入れません。

②【信仰は神の賜物であること、選びについて】

イスラエルが選ばれたのは神の憐れみでした。「あなたが正しいので、主がこの土地を与え、それを得させるのではないことをわきまえなさい。あなたはかたくなな民である。…あなたは主に背き続けてきた。」（申命記9:6～7）とあります。それと同じで、私たちに信仰が与えられたのは神の憐れみです。世の人よりも私たちは重病人だったからこそ選ばれたのです。私たちは病人です。神は私たちに治療を施し、神の癒しの力を現わそうとしているのです。教会に来るのは治療を受けるためです。自分を誇っている暇はありません。救われる人とは、神による治療を受け続ける人であり、滅びる人とは神による治療をやめてしまった人なのです。

はっきりしておかなければならないのは、神によらなければ人は誰もキリスト教信仰を持つことはできないということです。イエス様も言っておられます。「父が引き寄せて下さらなければ、誰も私のもとに来ることは出来ない」(ヨハネ6:44) たとえその人の中に教会に行きたいという想いが湧いたとしても、その思いを与えたのは神です。「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。」(フィリピ2:13) とあるからです。人が信仰を持つためには神がその人の心を開いて下さる必要があります。パウロがフィリピで紫布を商うリディアという婦人に福音を伝えた時「主が彼女の心を開かれたので…彼女は洗礼を受けた。」(使徒16:14) と書かれています。信仰告白も神によってさせられるのです。ペトロはイエス様の事を「あなたは生ける神の子です。」と告白した時、主は彼に「あなたにこのことを現わしたのは、人間ではなく私の天の父なのだ。」(マタイ16:16) と言われました。このように、招くのも神、信仰を与えるのも神なのです。

なぜ神は全ての人に信仰を与えないのでしょうか。なぜか、神はある人を選び、信仰を与えます。聖書ははっきりと「選び」があると語ります。「あなたがたが私を選んだのではない。私があなたがたを選んだ。」(ヨハネ15:16) 神は人が生まれる前から、ある人を選び、時を定めて召し出し、召し出した者に信仰を与えて、神の道具とされるのです。パウロは「神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。…神はあらかじめ定められた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし、義とされた者たちに栄光をお与えになったのです。」(ローマ8:29~30) と語ります。

●これは体験から分かるのです。カルトから脱会し、その後長い間、教会に来て熱心に聖書を学んでも、結局「信じる事が出来ない」といって教会を去って行った人が何人かいます。カルトの教えは信じれたのに、キリスト教の教えはなぜか、信じられないのです。また幼い頃から教会に通っていた子供たちが、大人になるに従って教会を去ってゆきます。なぜでしょうか。親の信仰が足りないからでしょうか。いいえ、親は熱心な信者です。教え方が悪いのでしょうか？そうでもないと思うのです。私の出した答えは「彼らは選ばれていない」ということです。

●マハトマ・ガンジーは、キリストを知ることは純粹に神からの賜物であると言っています。ガンジーはキリストの崇拝者であり、山上の説教で言われているところを実生活で実践しました。それでも彼はクリスチャンにならず、イエス様を神の子として受け入れませんでした。彼はいいます。「私の心は何者かに触れられなければならないのです。サウロは知的な努力によってではなく、何かが彼の心に触れたその体験によってパウロとなったのです。」

人は神に選ばれて信徒や牧師になるのです。キリスト教徒になることは他の人に代わって信仰し、「神の仕事」をするためです。また、私たちのような貧しい者を通して神の栄光が現れ、すべての人が祝福に入るためです。だから選ばれていな

いからと言って救われないのではありません。具体的な神の仕事が与えられていないということだけなのです。選びを確かなものにしなければ、その選びは他者に移されます。

③【宣教は神の業である】

なぜ、宣教するのでしょうか。それはキリストがそうされたからです。もし私たちがキリストと一体になったのなら、キリストと同じ思いを持ち、同じことをするはずですが。キリストがいかに人を愛され、食事をする暇もないほどに、人に関わられ、苦しんでおられる人に寄り添い、村々を歩いて汗とホコリまみれになって、宣教されたかを私たちは知っています。宣教は神の使命（ミッション）であり、私たちも神の宣教に加わるのです。全地に散らされている神の子たちを集めるのです。しかし、誰が神の子か分かりませんから、どこでも、誰にでも福音を伝えるのです。思いがけない人が福音を信じることがあります。

イエス様が12弟子を選ばれたのは、「彼らを自分のそばに置くため、また、派遣して宣教させ、悪霊を追い出す権能を持たせるためであった。」（マルコ 3：14～15）と書かれています。ここには「そばに置く」事と「派遣する」事の二つが書かれています。血液が心臓に戻ってくるのは、汚れた血液を綺麗にし、新鮮な酸素と栄養を取り入れて、また体全体に出すためです。同じように私たちは教会に戻ってきて清められ、力が与えられ、またこの世に派遣されるのです。礼拝の最後に「派遣の言葉」があるのはその意味です。このバランスが大事です。礼拝をして「ああ、いい話を聞いた」だけで終わるのではなく、世に出かけていかなければなりません。「あなたがたが出かけて行って実を結び」（ヨハネ 15：16）といわれたからです。この世に出かけて人に福音を語り、人と関わることによって、私たちは神の言葉が本当であることを体験し、自分の信仰が確かなものとされ、神を知る者とされるのです。

●アメリカ人宣教師ジョン・B・ヘールは、1877年に来日し、和歌山を中心に伝道しました。旅館の二階の座敷を借りて集会を始めましたが、いろいろと妨害をされました。西山善之助という鋸職人がいました。曲がったことが大嫌いで弱い者の味方でしたが、大のキリスト教嫌いで、欠点を見つけて退治してやろうと集会に乗り込んできました。しかし何度も話を聞いているうちにヘールという人物が好きになります。石を投げ込まれようと、牛の糞をぶつけられようと、罵られても、いつも態度は変わらず、誰にでも優しく親切にするヘールの人柄に深く心を打たれ、西山は変わりました。酒をやめ、喧嘩もしなくなり、柔和になり、ついに今までの無礼を詫びて洗礼を受けました。彼は180度変わり、ヘールの忠実な助け手となります。「キリスト教は人間を造り替える」と町中の評判になり、集会に人が集まり、迫害も止まりました。ヘールは「福音は座って集まる人にだけ語るものではありません。出かけていくものです。」と言って、どこへでも入って行

きました。ある旅館に泊まり、女中さんから「先生、お幾つですか」と尋ねられると「まだ子供ですよ。頭を見てごらんなさい。毛が十分はえていないでしょ」といって、皆を笑わせたそうです。紀州の聖者と呼ばれ、生涯を和歌山伝道に献げ、日本で亡くなりました。

やはり人柄が伝わるのだと思いました。人は教えを聞く前に、私たちを見ます。私たちにキリストの香りが現れていなければなりません。「キリスト教は人間を造り替える」というのは嘘ではありません。それが伝道の秘訣だと思います。パウロは「もっとも、わたしが福音を告げ知らせても、それはわたしの誇りにはなりません。そうせずにはいられないことだからです。福音を告げ知らせないなら、わたしは不幸なのです。」(I コリント 9:16) と言っています。彼もキリストに出会って造り変えられました。私たちもキリストの香りを放つ者となり、キリストを運ぶ者になりたいと思います。